

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2023年 第15週（4月10日～4月16日）

今週のコメント

～インフルエンザ～ 咳エチケット、手洗い、マスクの着用が重要

定点把握感染症

「インフルエンザ 非流行期へ」

第15週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,709例であり、前週比26.0%増であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、咽頭結膜熱、突発性発しんの順で、定点あたり報告数はそれぞれ4.92、2.21、0.80、0.24、0.22である。

感染性胃腸炎は前週比11%増の960例で、南河内7.88、三島5.41、中河内5.40、大阪市南部5.28、大阪市西部5.20であった。

RSウイルス感染症は86%増の430例で、大阪市北部4.43、北河内2.96、南河内2.75である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は27%増の156例で、大阪市南部1.89、大阪市北部1.14、中河内1.10であった。

咽頭結膜熱は15%減の47例で、南河内0.63、大阪市北部0.43、中河内0.40である。

インフルエンザは32%減の231例で、定点あたり報告数は0.78であった。南河内2.75、泉州1.03、三島0.80、豊能0.69、大阪市西部0.67である。定点あたり報告数が1.0を下回り非流行期に入った。

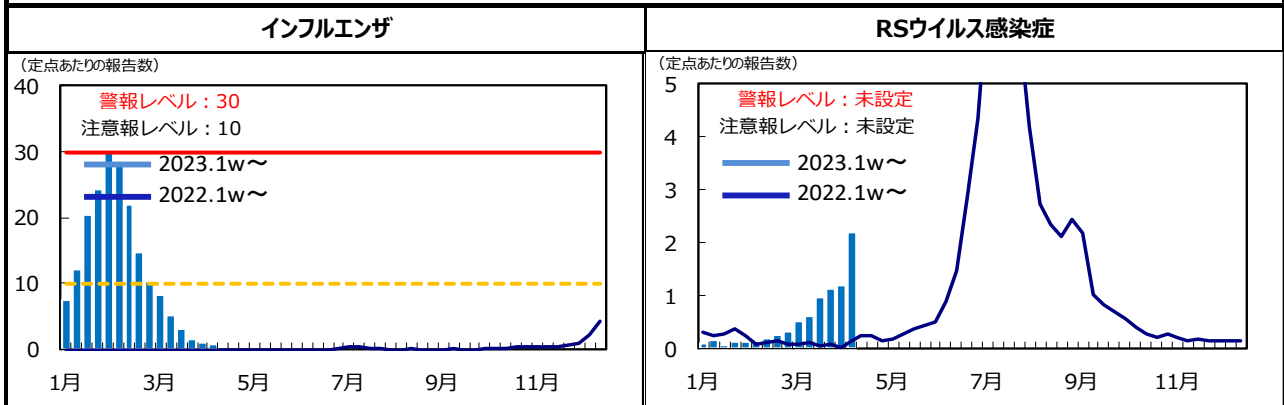


表 1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2023年 第15週4月10日～4月16日）

第15週の順位	第14週の順位	感染症	2023年 第15週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2022年 第15週の 定点あたり 報告数	2023年第15週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	4.92	11%増	2.43	1歳_21%
2	2	RSウイルス感染症	2.21	86%増	0.14	1歳_34%
3	3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.80	27%増	0.26	5歳_20%
4	4	咽頭結膜熱	0.24	15%減	0.10	1歳_30%
5	5	突発性発しん	0.22	増減なし	0.28	1歳_60%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	0.78	32%減	0.00	20歳以上_21%

突発性発しんについては、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。第36週からインフルエンザの新シーズンの集計が始まりました。

第15週のコメント

～日本紅斑熱～ 大阪府では2022年8例の報告があった。2023年は第15週で1例目が報告されている

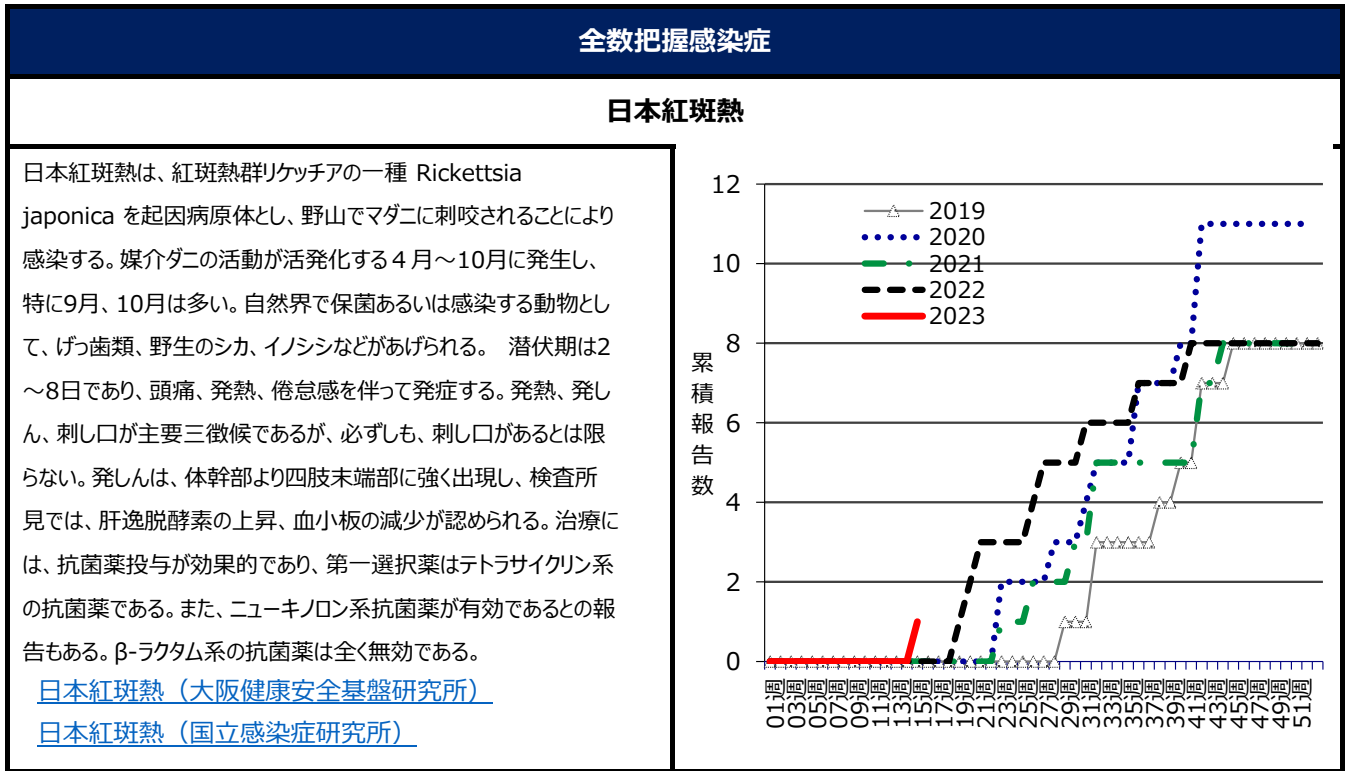


表 2. 大阪府全数報告数（2023年 第15週4月10日～4月16日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】>全数把握疾患 をご覧ください。）

	疾患名 ()内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	府内市町村								府内累積報告数
			豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	
4 類感染症	日本紅斑熱	1								1	1
	レジオネラ症（ポンティアック熱型）	1								1	31
	レジオネラ症（肺炎型）	1			1						
5 類感染症	アメーバ赤痢	1								1	15
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	4					1			3	41
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	1								24
	後天性免疫不全症候群	1	1								22
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1		1							13
	侵襲性肺炎球菌感染症	1								1	32
	梅毒	28	5	1		4			3	15	515
	播種性クリプトコックス症	1								1	3
	百日咳	3					2			1	10
新型コロナウイルス等感染症	新型コロナウイルス感染症	3,990	2020年1月以降累計 2,835,140								
結核 (2023年2月分)	結核 新登録患者数：45名		(内 肺・喀痰塗抹陽性 20名) (府内累積報告数 112名、内 肺・喀痰塗抹陽性 42名)								

(2023年4月18日 集計分)

新型コロナウイルス感染症の報告数は、大阪府の報道発表の報告数を示しています。

[詳細はリンク先の『令和2年11月2日以降』の情報をご覧ください。](#)